



# HOSTFAMILY

## R<sup>2</sup> 編集部から派遣学生へ

皆さんの出発する夏が来ましたね。長く、また短い準備期間が終わりを迎えようとしております。早い方は7月の下旬から遅い人でも9月には現地について、生活を始めているでしょう。

そこで、今回のテーマは「HOSTFAMILY」です。HOSTFAMILYと言っても様々なことがあります。今回はこの一つのテーマにおいて、4つに分類をして、HOSTFAMILYとよりよい関係を持つためのアドバイスを用意しました。

この記事を読んで皆さんにはHOSTFAMILYとよい関係を築いていただければ幸いです。

遠慮しすぎてしまった…

あの時HFと一緒にいれば…

HOSTFAMILY

ホストプラザーとシスターどう接すれば…

HFと宗教で…

## 日本人は遠回しがお好き？



2003年度

ロシア派遣

石渡 雅大

イシワタ・マサヒロ

日本人というのは遠回しに言うことが相手のことを思いやり、気遣いがあると私は思っています。私自身そこまで気にしながらしゃべっているとは自覚していませんでしたが、ロシアでホストファミリーとのやりとりで自分はなんて遠回しな人間なんだろうと感じたことがありました。当時、私がステイしていたお宅が学校からかなり遠い

ところにあり、いつも通学はホストパパの運転で通っていました。あまりにも遠すぎるので学校の近くにアパートを借りているほどでした。このアパートはホストパパが仕事が終わったときにそこまで迎えに来て拾ってもらって合用途に使われていました。ある日、私が少し遅くまで遊んでいて、逆にパパが早く仕事が終わったときがありました。自分は迎えに来てもらえばいいと思いつつ、ちょっと迷惑をかけてしまったなと思って電話をかけました。素直に帰りたいんだけど伝えればよかったのですが、「お父さん、忙しい？時間ある？今、迷惑じゃなかったら迎えに来てくれる？無理だったら別にいいんだけど」とかなりの遠回しな言い方をしました。するとパパは「帰りたいのか、帰りたくないのかどっちなんだ」と怒りました。

このことから学んだことは、中途半端にしたいことを言うべきではないということです。

したいことはしたいとはっきりいって、ある程度ワガママになることが良い経験に繋がると思います。迷惑かも、自分のためになんか、なんて考えるより私はこうしたいんだという意志を伝えることが友達とのコミュニケーションにおいても、ホストファミリーとの関係においても大事なのではないのでしょうか。

本当の家族になれるように皆さんも努力を惜しまないでください。

本当の家族になれるように皆さんも努力を惜しまないでください。

## 言ったもん勝ち！



2003年度

オーストラリア派遣

大槻 祐子

おおつき・ゆうこ

私の場合は一番目のホストファミリーに遠慮しすぎていました。と、言うよりもどう接したらいいのか分からなかったのでしょう。自分から気持ちを伝えることは必要最低限で、せっかくホストファミリーの方から何かしようと誘われたのに気が乗らなかったり、照れくさかったりして断ってしまったり、母の日などの家族で過ごすイベントではなんだか自分が邪魔者のような気がして部屋に行ってしまう。自分が引っ込み思案になればなるだけ相

手とコミュニケーションが取れず、お互いにぎこちなくなっていました。

このままだといけないと思った私はまずホストファミリーと話すように心がけました。その日学校でということがあってどう感じたのか、宿題なども手伝ってもらったりして、だんだんと自分のしたいことや希望を伝えられるようになりました。相手に意志を伝える、良い意味での凶々しさが必要だと思えます。それからはお互いに頼み事をし合ったりして、以前よりかずっと一緒に過ごしやすくなりましたし、以降のホストファミリーともうまくやっていました。このホストファミリーに遠慮していたなという点はホストシスターやブラザーとの関わり方にも関係してくると思います。私の場合、良いと思ってやっていた家事がきっかけでホストシスターとの関係がギクシャクしてしまった時期がありま

した。ホストのお母さんは良く手伝いをする私とめったにしない娘を比べ、それは娘からすれば面白くありません。きっとホストシスターに居心地悪い思いをさせていたことでしょう。それに気づいても急に家事を止めることも出来ず、毎日間に挟まれたような感じを受けたこともありました。これも発端はコミュニケーションの不足からです。私の信条の一つに挨拶とごめんなさいは言ったもん勝ちと言うものがあります。この場合も同じで何か気になることがあれば自分からアクションを起こす。すると自分の思い込みだったり、相手にも自分の気持ちが伝わって、今まで悪い方向に進んでいたのが良い方向になる場合もあります。今当時に戻れるのならホストシスターに遠慮せず、一言家事を一緒にしようと伝えるべきだったと思っています。家事を私一人でするのは大変でした

し、二人でやった方が早く終わるし、何よりもホストシスターに居心地悪さを感じさせてしまうことも無かったことでしょう。

ホストシスター、ブラザーと言ったって別に自分が上や下の立場にならなくてもいいんです。ホストペアレンツよりも年齢も近いからこそ何でも言い合える友達のような関係がいいのだと思います。

今回2つの事を皆さんにお伝えしま

す。ホストファミリーやロータリーが何かに誘ってくれた時にはいくら気乗りしなくても行くべきです。行くと知らぬ間に楽しんでいる自分がいたり、普段とは違った形でコミュニケーションが取れるのでこれからの生活に絶対に役に立つはずですよ。

そして挨拶とごめんなさいは言ったもん勝ち！留学は言わばコミュニケーション能力を鍛える機会でもありま

す。是非自分から積極的にコミュニケーションを取れる人になって欲しいです。

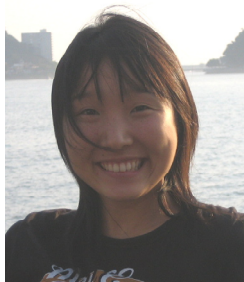
留學生活の半分以上の時間を一緒に過ごすホストファミリーとお互いにとっていい関係を築くことは大切です。決して無理はせず素直な気持ちで向かい合ってください。

## H F といる時間。

2006年度  
ブラジル派遣

渡辺 ゆり恵

わたなべ・ゆりえ



留學中、HFとの時間よりも、他の何かを優先させてしまったことはありましたか？

私の場合ホストファミリーとの仲は悪くはなかったものの、本当の意味で家族のような存在にはなれなかった気がします。それは、私があまり家にいなかこと、友達との付き合いに時間を多

くつかってしまい友達との仲は深まったものの。そこが、わたしの、ホストファミリーとの関係で後悔しているところでですね。

はじめのうちは、なにかと遠慮してしまっ、どうしてよいやらわからなかったものの。でも、自分から家事を手伝ってみたり、お皿を洗うことくらいなら、”お皿を洗いますよ”という言葉調べれば言葉がなくても、できますね♪でも、わからなくても、あきらめず、会話に参加したり、一緒にテレビをみたりして、些細な時間を家族とすごしたらよいと思います。のちのちそういう時間が大切だったと気がつくのです。

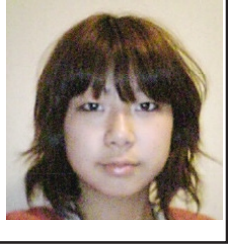
ホストファミリーとの、時間は自分の行動しだいでも変わることが

多いです。ただ、積極的になって下さい。ホストは喜んで助けてくれると思います。

寝に帰る家にならないように、家族との時間を大切にしてください。

ホストを引き受けてくれた家族のためにも、正直にぶつかったらよいと思います。変な遠慮と変な恥ずかしさはなくして、3.4ヶ月時には半年時間を共にする家族なのですから。

## あの時間をホストファミリーと…



2005年度  
韓国派遣

杉岡 美季

すぎおか・みき

このように後悔することは、帰国してからよくあります。

本当の家族じゃない分、気を遣って疲れたり、遠慮して無意識のうちに空き時間をひとりで過ごしている。

きっとみなさんも派遣中に一度は体験することでしょう。私もそうでした。朝は早くから、それぞれ学校や仕事があるので、顔を合わせることはあつて

もゆっくり話をする時間などありません。放課後は学校で夕飯を食べて帰るので、家に着くころにはもうぐったりと疲れていました。「ただいま」を言うとすぐに部屋に入り、ひとりの時間を過ごすことがほとんどでした。ちょうどそのころは、韓国語がもっとうまくなりたいという思いから、インターネットで韓国語のブログをしたり、韓国ドラマを見るのに夢中でした。派遣中はこれが間違っていると思ったことはなく、気が向いたときだけ HF との時間を過ごすという、自由奔放な生活をしていました。

だけどこれは間違いです。どんなに些細なことでもいいので、派遣中は1分1秒でも多く HF と過ごすことを心がけてください。テレビを一緒に見る。

家事を手伝う。耳にタコができるほど聞いているかもしれません。ほかの ROTEX もたくさん書いています。なぜならそれは（一見大したことないと思っただけかもしれませんが）本当に重要だからです。

最初は大変かもしれませんが HF となるべく多く一緒にいれば、いつしかそこが安らぎの場所となっているかもしれません。ホストファミリーは派遣中、あなたの大切なかけがえのない家族なのです。帰国してからも私は第二の家族だと思っています。

## ホストブラザーと



2006年度  
アメリカ派遣

大沼 恵理

おおぬま・えり

私には、お世話になった4つの HF のうち、3つの HF にホストブラザーとシスターがいました。1stHF と 3rdHF の兄弟たちは、10歳にも満たない子ども達で、小さい子どもが好きな私にとって、いい遊び相手になってくれました。彼らと一緒にお菓子を食ったり、おもちゃで遊んだりしたことは、HF との生活の中でも特に印象に残っています。しかし、2nd HF のときは少し訳が違いました。

2nd HF には、19歳と16歳のホストブラザーがいました。22歳のホストシスターもいましたが、彼女は大学で寮暮らしをしていたため、家にはいませんでした。問題は、こんなに歳の近い男の子たちと一緒に暮らすことが初めてのことであって、彼らとどう接して良いのかさっぱり分からなかったことです。男の子と何を話していいのかも分からないし、兄弟としてどう接すべきかも分からない。会話は必要であることを伝えるときくらいでした。

これではいけないだろうとは思っていたけど、やっぱりわからない。というわけで、友達や ROTEX の先輩方に相談を持ちかけてみることにしました。その答えのほとんどは、「何でもいいから話しかけてみることに、質問してみることに」。そう、話しかけることをしなければ、友達としても、兄弟としても関

係を築くことはできないのです。

結局、その後状況が変わることはありませんでした。最大の原因は自分にあったからです。これはホストブラザーとの関係だけにいえることではありませんが、積極的に会話を持たなければ、相手のこともわからないままであり、自分のことを知ってもらうこともできません。良い関係を築きたいのであれば、積極的に話しかけること、多くの時間、同じ空間を共有することが大切です。私のように「分からない」からと言いつつしている暇などないのです。今思えば、同じ年頃の兄弟がいたのは、2nd HF にお世話になっていたときだけです。同じ学校に通っていたのだから、学校での生活ももっと楽しいものになったのかもしれない。そう思うと、あのときもっと積極的になれていたらと悔やんでなりません。

## お土産に一工夫



2005年度  
オーストラリア派遣

椿 由美

つばき・ゆみ

ホストシスター・ブラザーがちょうど自分と同じくらいの年齢で学校も同じだと、気もあいやすく話す機会も多く作ることができると思います。しかし、もちろん様々な家庭があるのでシスターが幼稚園生であることもあれば、ブラザーはいつもは大学の寮に住んでいてたまたま夏休みに帰省してただけ、ということもあるでしょう。

年が離れていれば、誰でもどう接すればいいか一瞬戸惑うことがあると思います。

そこで日本から持っていくものにも一工夫してはどうでしょうか。私のホスト兄弟は大体同い年でしたが、始めのファミリーだけはホストクラブの会長さんで、祖父母くらいの年齢の優しい夫婦の方だったので、兄弟はいないのだと思って和風の手ぬぐいや扇子をお土産に持っていきました。しかし、しばらくすると近くに住む5人の子供とさらに沢山の3歳～14歳の孫が週に4、5日は家にお茶を飲みに来ることが分かりました。はじめは何をしてあげられるだろうと思いましたが、自己紹介をしたあとに紙風船で遊んだり宮崎駿のDVDを貸してあげたりして

いるうちにとても仲がよくなり、学校では決して学ぶことのない鬼ごっこやかくれんぼで使う英語も覚えることができました。ある日6歳の女の子が「今日は由美と遊びたいからおばあちゃんの家に来たのよ」と言ってくれたのを聞いたとき、ここまで親しくなることができてよかったなとうれしく思いました。

派遣学生の皆さんも現地で新たな兄弟が沢山できることを楽しみに準備を進めてほしいと思います。

## ドア。



2005年度  
フランス派遣

平井 貴史

ひらい・たかし

私のホストファミリーには11歳の男の子がいました。心を掴もうと、神楽坂商店街で伝統的なおもちゃを探しました。独楽・剣玉は好評で、剣玉は私と同年代の男の子も夢中でしたよ。挨拶にもなるお土産を気に入ってもらえれば、ホームステイは幸先のいいスタートを切れるのでは。相手の性別・年齢を考えて、喜ばれそうなものを探

してみましよう。

日常生活については、まず基本的なことですが、帰宅時はお互い玄関まで顔を見に行っていました。

また、自分の部屋のドアを開けておきました。閉まっているときは「壁」ですが、開けておけば部屋は「開かれた場」になり、ドアはコミュニケーションツールにもなれるのです。こうすることで、声を通るため家族は声を掛けてきましたし、弟はよくぶらっと部屋に寄ってきました。覗かれてはまずいことなんて滅多にないでしょうし、これはお勧めします。

あとは、なるべく時間を共有するようにはしていました。彼が居間でテレビを見ていたら一緒に見ましたし、2人ともサッカーが好きだったので、時々

公園でボールを蹴ったりしました。例えば学校生活でもそうでしょうが、関わる時間が長い人ほど仲良くありませんか。多くの時間を共有すればそれだけ話をする機会がある訳ですから、積極的に話をしましょう。みんな同じで、たくさん話せば話すだけ打ち解けます。仲良くなるにはそれが一番です。

1つ確実なこと。大事なことは話すことです。

# 宗教と信仰心



2001年度  
アメリカ派遣

相川 かよ

あいかわ・かよ

"宗教"と"信仰心"とは異なるものですが、「なにかを心の底から"信じる力"、"信仰心"は、その人間の核となっている。」と、いうことを10ヶ月のアメリカ田舎町への留学を通して体験しました。

私が派遣させて頂いた時期がちょうど9.11と重なったこともあり良い影響・良くない影響、両方とも感じました。

良くない影響とは、キリスト教とイスラム教に対して悲惨かつ"自己中心的"なイメージを持ったこと。

良い影響は、自分の宗教や信仰心をはじめ世界の宗教に関して生まれて初め

て興味を持ち始めたことです。(日本に住んでいる時は宗教や信仰心について考える機会がほとんどなかったのです)

そして、一番大切なことは、様々な宗教があり、信仰様式も多々ある。

と、いうことを拒否せずに"受け入れる"ことだと思います。

そのうえで、

1. 自分が何を信じているのか?
2. 家族(自分を含む)の信仰しているモノ(宗教)はなにか?

そして、その宗教について基本的な知識をつけておく。

3. 日本人の宗教観を知る
4. 日本の宗教の歴史を知る
5. 日本人の神やスピリットについて知識をつける
6. 各宗教の基本的な知識をつける

以上のことが、大切だと思います。

他文化の人々を知るうえでその文化の宗教(信仰の対象)を知る、ということはとても大切なことなので基本的な知識は、留学する前に日本語でよく理解しておくのをオススメします。(世

界の芸術や文化はすべて宗教・信仰することが基になって生まれていますしね!)

日本に居ると宗教と聞くと何だか嫌な雰囲気がしますが、世界の文化の発祥となっていたり、面白いこともたくさんあるので楽しみながら知識をつけられると良いですね。

それでは、派遣学生のみなさん!

「リラックスして自分らしく、そして楽しみながら留学生活を楽しんでくださいね!」

なにか心配なことや不安なことがあればメールお待ちしております。

\*日本の宗教観や信仰心を知るには下記の資料がオススメです。

・DVD: 宮崎駿さんの「トトロ」、「ハウシカ」、「もののけ姫」等

・書籍: 中沢新一さん著「カイエソバージュ」シリーズ

## 留学中に宗教とは関わらない！



2006年度  
ブラジル派遣

立入 朗人

たちいり・あきと

こんなことを僕は派遣前、心の中で決めました。日本で宗教とは無縁の生活を送っていた僕は、宗教と関わることに恐れを感じていました。でもどんなに避けようとしても、留学中に宗教と関わる機会は何度か訪れました。ある日、ホストファミリーから

ある宗教を信仰している人を紹介され、その協会に行ってみないかと誘われたことがありました。正直それはあまり気の進む話ではありませんでしたが、ホストファミリーの顔を立てるといふ気持ち、そしてブラジルの文化を知るための良い機会だと考えてその協会に行ってきました。その他に、ホストファミリーに連れられて日曜礼拝にも何度か訪れましたが、自分にとってどれも貴重な体験となりました。そこで宗教にどっぷり漬かってしまったら、確かにそれは問題です。だから、もしもホストファミリーから宗教に入るように勧誘されたら、例えそこでホ

ストファミリーとの信頼関係が崩れようとそれは絶対に断るべきです。でももしも、ホストファミリーがその国の文化としての宗教を見せるために、協会へ連れて行ってくれると言うのであれば、その機会は有効活用するべきです。皆は国際親善大使として派遣先の国のことを知る必要があるの、宗教をあくまで客観的な立場から見て、その国の文化の1つとして利用すればいいと僕は考えています。

2006年6月号より再掲載

## 8つのポイント



1999年度  
ブラジル派遣

稲葉 大

いなば・ひろし

「君には今、二つの選択肢がある。今すぐここを出て行くか、それとも日本に帰るかだ」第二ホストファミリーにこんなことを言われましたし、第一ホストファミリーともうまくいかなかった自分は、ホストファミリー（以下HF）とうまく行かないことに関してはちょっとした権威なんじゃないかと思えます。とても恥ずかしい話ですが、

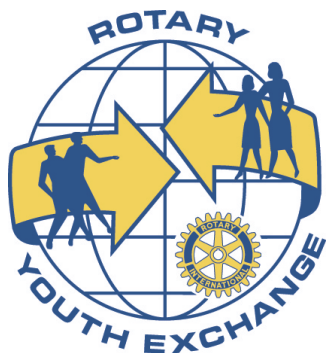
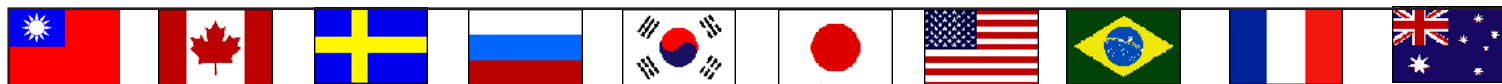
ポイントは8つあります。①自分の部

屋に閉じこもる、②自分から話しかけない、③笑顔で挨拶をしない、④料理や習慣を拒絶する、⑤友達と遊んでばかりでろくに連絡もしない、⑥日本のことばかり考えている、⑦他のHFと比較して不満を漏らす、⑧とりあえずHFのせいにする。

以上8点をしっかり実践すれば、HFとばっちり険悪になれます。しかし逆に、以上の8点と正反対のことをするように努めれば、HFの関係は悪くなることは少ないです。

HFはボランティアであなただけを迎え入れてくれています。そしてどのHFもあなたと良好な関係を結びたいと願っています。緊張や言葉や習慣の違いから、はじめはあなたの頭が真っ白になってしまうかもしれません

が、上に挙げた8点の正反対のことをするように心がけてみてください。そしてもし、HFとうまくいけなくなるときは8点のいずれかに自分が当てはまっていないか、省みてみてください。HFとはたいへん良好な関係を築くことができましたよ。ただ万が一、どうしてもHFとうまくいかない場合は、カウンセラーまたは身近なロータリアンに相談しましょう・



R<sup>2</sup> は当 2780 地区多くの ROTEX の方々、  
ガバナー事務所の協力を基に発行されています。  
多大なる尽力に感謝いたします。

R<sup>2</sup> 編集長：杉岡 美季  
(2005 年度韓国派遣)

DIRECTOR: MIKI SUGIOKA  
EDITOR: MASAHIRO ISHIWATA  
SUPPORTER: ERI OHNUMA  
AKITO TACHIIRI